



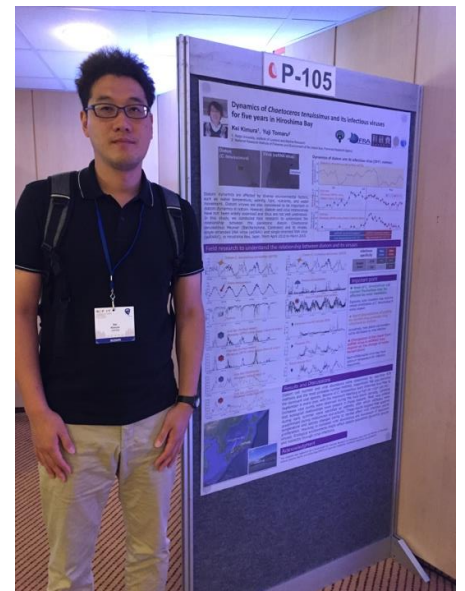
CONTENTS

- 国際会議「The 15th International Congress of Protistology」参加報告
- 「Enjoy!有明海 2017」開催報告
- 「市民の干潟調査」を模索～肥前鹿島干潟

国際会議「The 15th International Congress of Protistology」参加報告

7月30日（日）から4日（金）にかけて、チェコ共和国プラハで開催された国際会議「The 15th International Congress of Protistology（第15回国際原生生物学会議）」に参加しました。この国際会議は、原生生物は、真核生物のうち、菌界にも植物界にも動物界にも属さない生物の総称とされている生物の仲間、植物プランクトンも含みます。この学会では、多くは光合成をしない生物（葉緑体を持たないので、無色の生物）を研究対象とする研究者が多く参加している学会でした。木村は、この会議には初めての参加でしたが、興味深い研究報告がたくさんありました。調査研究をしているとあまり気づかないのですが、次世代シーケンサーという莫大な量のDNA、RNAを解析する技術が登場していき、世界の生物研究は劇的に変化しています。原生生物の世界でも、海を含め様々な環境にどのような原生生物がいるのかを解明するツールとして、かなり活躍している印象でした。他にも、今まで膨大な予算と時間を費やして解読してい

た生物のゲノムも、安価で迅速に解読ができるようになり、多様な原生生物のゲノム解読が進んだことで、生物の遺伝子、代謝経路などの進化について、これまでとは次元が違うレベルで理解できる時代が到来しているのを感じていました。



今の有明海調査にとって興味深い話題は、渦鞭毛藻が捕食者の捕食圧から逃れる行動についての話題でした。昨年、ノリの色落ち原因となった渦鞭毛藻アカシオ・サンギニアなどは、夜に底層に移動し、昼に表層に移動するので

本センターは、「低平地・沿岸海域」を切り口とする国内唯一の学術研究機関として、有明海およびその沿岸低平地の諸問題はもとより、アジアの低平地研究の中核的拠点として広く研究成果を発信するとともに、恰好の研究・教育フィールドを活かした国際的・地域的な研究・教育を推進しています。

すが、底層に捕食者である繊毛虫が居ると、夜に底層に移動するのをやめるというのです。単細胞であるアカシオ・サンギニアがどのように繊毛虫の存在を感じ、それを個体群内に伝えているのかは分かりませんが、こうした生物間相互作用が赤潮発生にもたらす影響は無視できないと感じました。将来、調査を高度化する為には、こうした生物間相互作用の理解、対象生物のストレスに対する生理反応をよく理解していく必要があるだろうと強く感じました。

さて本会議では、私は「Dynamics of

planktonic diatom *Chaetoceros tenuissimus* and its infectious viruses for five years in Hiroshima Bay, Japan」という演題で、珪藻とそれに感染するウイルスの詳細な動態を紹介しました。世界中で生物間相互作用に興味を持たれている中、ウイルスの話題は注目をうける内容で、活発な議論をすることができました。

会議の時間以外は、美しいプラハの街を楽しむことができました。長い歴史を持つ街、そして何よりもいろんな種類の美味しいビール！最高の経験をすることができました。今回の国際会議への参加は、今一度、植物プランクトン

が「生物」であるということ意識し、調査研究に生物学要素を活かしていくことが何よりも必要ではないかと考えさせられました。

(木村 圭)



「Enjoy!有明海 2017」開催報告

今年で3回目となる「Enjoy!有明海」を10月1日に開催しました。昨年までは猛暑の夏に行っていましたが、スタッフの体力の消耗が激しく、また、熱中症になる可能性があるため、今年は時期を大幅に変更し、秋に移動してみました。朝晩が涼しくなり、日中でも曇りであれば夏の猛暑のようなことはなくなった10月の開催は、サポートしてくださった方には好評でした。



今年の Enjoy!有明海は、諸事情により小規模になりましたが、「ムツゴロウの蒲焼試食コーナー」、「市民の科学講座～有明海学 2017: 生き物観察モニタリング」、「うなぎ塚漁体験（調査）」のコーナーを佐賀大学低平地沿岸海域

研究センター、まえうみ市民の会、鹿島市民立生涯学習・文化振興財団、株式会社七浦（道の駅鹿島運営団体）、七浦地区振興会（鹿島市干潟展望館運営受託団体）とともに連携して実施しました。また、九州北部地域の水族館連携（鹿島市干潟展望館でミニ水族館を運営していることによる連携）として、長崎ペンギン水族館による「ペンギン Hi タッチ」、マリンワールド海の中道による「タッチプール」や「標本展示」のコーナーを開設してくださいました。それぞれのコーナーで多くの方の目をひいていました。



今回は小規模にしたためにこれまでのような大人数を集めることは出来ま

せんでしたが、もともと来客の多い道の駅で開催することにより、有明海への理解の普及という面では役割をはたせたのではないかと思います。ただし、秋は祭りや運動会などのイベントが多く、これらのイベントとかぶってしまうという課題もありました。来年度開催する際には検討が必要かもしれません。



最後に、参加いただいた皆様、イベントスタッフとして働いてくださった皆様、有り難うございました。

(藤井直紀)

「市民の干潟調査」を模索～肥前鹿島干潟

ラムサール条約登録湿地である肥前鹿島干潟では、ワイズユースを目指して、様々な活動を行っています。また、協議会などを設立し、情報共有をはかることもしています。一般市民が「海や干潟の情報」を得るには、通常、専門家や漁業者に情報を訊いて理解するというプロセスが多いのですが、市民自らが干潟を観て理解をするということも重要です。昔であれば、「晩飯のおかず獲り」という名目で干潟に行く機会が多かった鹿島市の方でも、現在はほとんどの人が干潟に行くことはありません。そこで干潟に目を向けるイベントに取り組んでいます。その一つとして「市民調査」を行おうという動きがあります。

鹿島市沿岸の干潟は「泥干潟」であ

り、プロでも調査を行うことは大変です。それを市民が行えるようにするためには工夫が必要となります。鹿島市ラムサール条約推進室、日本国際湿地保全連合、佐賀大学低平地沿岸海域研究センターの有志で、市民調査プログラムを作成し、今年7月に市民有志に体験して頂きました。市民から得られた感想から、現在再度プログラムを作り直しているところです。これを10月8日に実施します。

本来であれば、ラムサール条約が登録された干潟で行いたいのですが、7月初めの九州北部豪雨の影響で干潟の中に様々なものが埋まっており、怪我の心配があるので、今回は道の駅鹿島の前に広がる干潟で実施の運びとなりました。是非、まわりの皆様をお誘い

の上ご参加ください！なお、このイベントは「鹿島市民」に限りません。どなたでも参加出来ますので、是非遠くからもお越しください！

日にち：2017年10月8日

時間：14:00～16:30

場所：道の駅鹿島

集合場所：鹿島市干潟展望館

※汚れても良い服でお越しください。また、10月とはいえ暑い可能性があるため、水分の補給などの対策をお願いします。

※参加は無料ですが、申込はお願いします。鹿島市ラムサール条約推進室まで



● ● ● 編集後記 ● ● ●

朝晩がめっぽう涼しくなってきました。薄着で寝たら風邪をひいてしまいそうです。皆様、お気を付けてください。私は風邪気味です。健康な身体をつくらうと、運動しようと思心では常に思っているのですが・・・残念ながら実行が伴っていません。

さて、早くも10月。2017年度も後期になりました。年度前半を見直して、後半新たな気持ちで頑張りましょう！

広島東洋カープリーグ優勝で喜ぶ編集員より（藤井）

発行・編集

佐賀大学低平地沿岸海域研究センター
〒840-8502 佐賀市本庄町1番地

TEL 0952-28-8582 0952-28-8846

FAX 0952-28-8189 0952-28-8846

E-mail ilt@ilt.saga-u.ac.jp

ホームページ

<http://ilt.saga-u.ac.jp>